

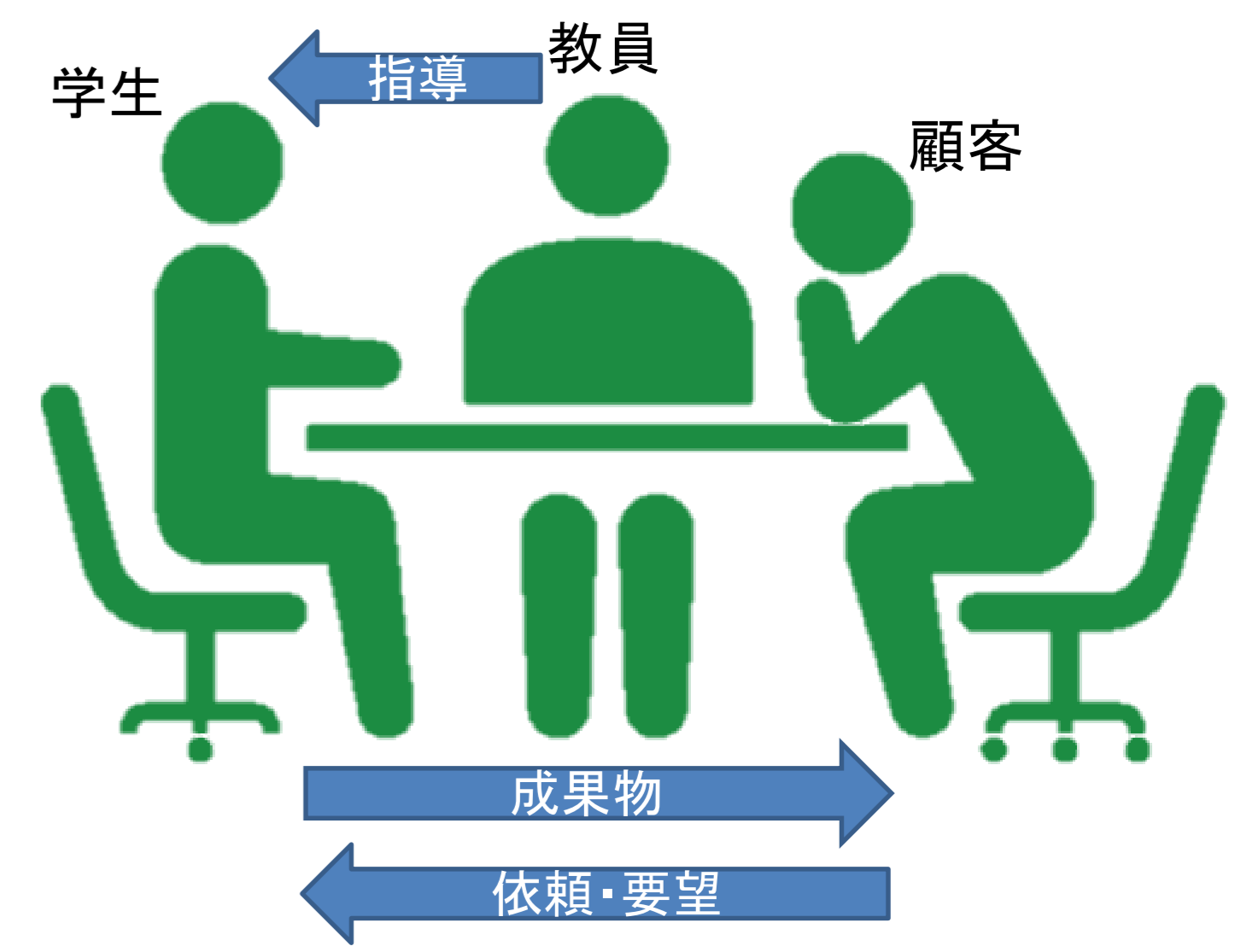
ソフトウェアスタジオ Bチーム

ソフトウェアスタジオとは何か？

ソフトウェアスタジオとは、3年次にソフトウェア工学トラックの授業で学んだ知識を活用し、実際に外部のお客様を招き開発プロジェクトを進めていく、会津大学4年次の授業です。

監督として大学教員やコーチの企業講師がプロジェクトに参加していますが、開発チームはあくまで学生のみで構成され、学生が直接顧客と成果物のやりとりを行い開発を主導します。

実際のソフトウェア開発を体験し、その中で様々な課題に直面することでソフトウェア工学の必要性を知ることが目的です。



2015年度 Bチームの事例

顧客：会津医療センター緩和ケア科 様

注文内容：患者に対して行っているアロマトリートメントという施術の過去の履歴を記録閲覧することで、施術の質を向上したい。また、施術履歴は研究にも役立てたい。

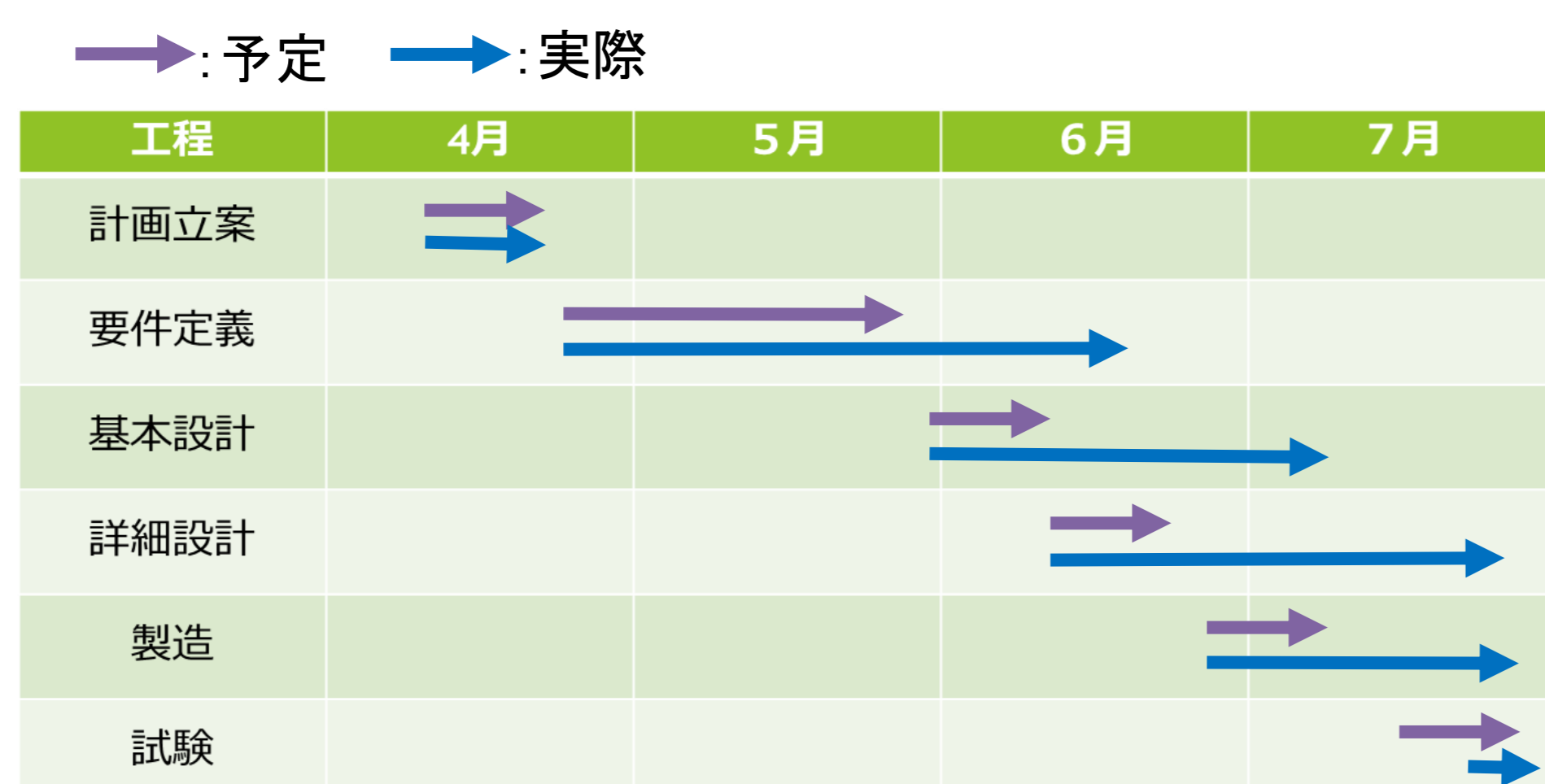
チーム運用

・Bチームの概要

チームメンバー：7名
プロジェクトマネージャー：工程ごとに1名（計3名）

・作業管理

活動期間：
4/13～7/27
(15週、105日)



ミーティングを週2回行い、各メンバーの進捗を確認しました。
成果物はRedmineにてメンバー内で共有しました。

成果物

アロマトリートメント管理システム

アロマトリートメントの施術履歴を患者ごとに管理できるシステム



患者の施術履歴、症状、パッチテスト情報からオススメの精油を選定

アロマトリートメントの業務とユーザーに合わせた画面デザインを目指しました。

苦労したこと・工夫したこと

プロジェクトの前半は各メンバーのプロジェクト活動に対する意識が低く、連絡や作業の遅れが生じてしまった。
⇒ミーティングの日取りを決めたり、欠席するときの連絡ルールなどを定めることで、自分たちのプロジェクトである意識を持つようにした。

顧客からヒアリングした内容をそのまま受け取り、（根幹の要求、要求の現状からの）本当の要求を分析・理解することに時間がかかってしまった。

⇒顧客側の要求の背景や業務内容を想像して、本当に必要な要求を分析・理解し、提案するようになった。

メンバー内の進捗確認不足、メンバーの技術的な知識不足（開発環境、プログラミング等）から、時間を予想以上に費やしてしまった。

⇒作業量に応じてミーティングの回数を増やして、進捗確認を行う頻度を調整した。

学習したこと

プロジェクト活動は各メンバーのモチベーションの差が顕著に出やすく、全員が同じ意識で団結することが難しかったです。そのために、メンバー一人一人の強みを生かせる環境、誰かに任せきりではなく、お互いをサポートし合うことのできる環境が大切であると知りました。

また、要求の背景や内容を見極めてより良いプロジェクト開発を行えるように、知識や経験、視野を広げていくことも重要であると感じました。

これらの努力を通じて最後に成果物を納品したときは、通常の授業では得られない達成感を感じました。